

○高橋伸二委員長 続いて、みやぎ県民の声の質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて十分です。小畑きみ子委員。

○小畑きみ子委員 みやぎ県民の声の小畑きみ子です。委員長のお許しを得ましたので、通告に従い質疑させていただきます。庄田委員も質疑されていたことが重複する可能性もありますが、御容赦ください。

今回の補正予算案におきまして、子育て環境整備のため置き型授乳室の設置に二百万円の予算をつけていただきました。八人の子供を産み育てている私としては、授乳室がどこにでも設置されている社会環境は本当に喉から手が出るほど欲しかった切実なものであります。そのために予算をつけていただいたことは本当にうれしく思っております。知事として数々の業績を積み重ねている中、先日の地元紙では庄田委員もおっしゃっていました。宮城県の合計特殊出生率が全国最低水準等であることについて、知事は反省点で責任を感じると掲載されました。そして見出しには、子育て支援充実へ意欲と書かれてありました。なぜ子育て支援の充実を図ることに力を注ぐとお考えになつてくださったのか、その理由を伺います。

また、厳しい財政状況が今後更に続くかもしれません。それでも子育て支援充実の予算を拡充させるお考えがあるのでしょうか、併せて伺います。

○村井嘉浩知事 少子化が急速に進行する中、近年の我が県の合計特殊出生率の状況には強い危機感と責任を感じておりまして、これまで以上に少子化対策を強化していかなければならぬと考えております。出生率に関しまして、我が県では近年特に母親候補となる二十代前半の女性の流出・減少、子供を産んでくれる人が二十歳の前半にいないなってしまう、宮城県から出て行ってしまうという問題、それから三十代以降の出生率の低さが課題であるということで、調べてみると東京都よりも宮城県は三十代以降、女性が子供を産まないのですね。そういう課題がありました。こうしたことから、一つには二十代前半の女性から選ばれる地域になること。二つ目には三十代以降の出生率上昇に向けて、希望する人数の子供を産めるような支援策を充実させるということが当面必要ではないかと考えて、職員に指示をしているというところであります。二月には、子育て支援関係者から直接、子育て中の孤立感やワンオペ育児で体調を崩した経験談、外出先に授乳室が少ない話など切実な声を直接伺いました。私自ら伺ったわけでありませ

新・宮城の将来ビジョンで新たな施策の柱とした子ども・子育て分野は特に強力に施策を推進していくこととしておりますけれども、子育て支援はその中の重要な施策でありまして、更に力を注ぐ必要があると考えたということでもあります。その中で先ほど言ったように授乳室の話が強く出まして、小畑委員と同じように非常に外に出づらいう話がありました。そこで、今回寄附金を頂いて、子育ての資として使ってほしいという形でもらった寄附金を充てまして、その財源でまずはm a m a r oという箱型の授乳室を二か所置きます。ただ宮城県のこの広い中で二つぐらい置いたところで大して効果はないのですけれども、それを一つモデルとして、いろいろ調べさせていただこうかなど。アンケートを取って、使い道から聴いて。それが非常に高いんです。車一台分ぐらいするのでそれだと数、置けませんので、もっと安く簡単に造れる方法を、宮城県の県内の事業者の人たちとかN P Oの人たちとかいろいろな方たちの意見を聞きながら、宮城県のそういう一つの産業という形で育てていければ、いいモデルが作れば今度は外にそれを売って、外に持っていくこともできますので、安価に造れる、簡単に造れないかということを検討してほしいと。これを県庁挙げて、全庁挙げて、やってほしいという指示を今出しているということがあります。

それから二つ目、厳しい財政状況が続くことも予想されますけれども、子育て支援施策の充実に向けて、予算を拡充する考えはあるのかという御質問であります。子育て支援は地域に活力をもたらすためにも必要な未来への投資でございます。厳しい財政状況の中ではございますけれども、必要な施策を実施できるよう部局間での連携なども含めまして知恵を出し合って検討を進めていく必要があると考えております。先ほど庄田委員の質疑にもありましたけれども、やはり子供に対する投資というのは今すぐ成果は出ませんが、十年、二十年、三十年たって必ず宮城県にとって、日本にとってプラスの大きな効果が出てまいりますので、そちらにも力を入れてまいりたいと思います。また、これから労働力がどんどん足りなくなってきましたし、国際化を進める意味でも外国人の方が来て、住みやすい、住んでいただけるような、そういう環境をどうやってつくるのかということも大きな課題であろうと思つて、そこも併せて外国人の子供さん方の子育て、こういったようなものにも宮城県は特に力を入れていきたいなと考えております。

○小畑きみ子委員 知事は先ほどもおっしゃっていましたが、知事になって十六年目というところで、この宮城県で初めて母親になって私も十六年目になります。知事の子育て政策の下、第一子から第八子まで産み育てておりますが、この十六年間、やはり授乳室に関しては置き去りになってきた部分だったので、本当に子育て世代のお母さんたちがこの部分に関しては長い間待ち望んでいたものだと思っております。整備されてこなかった授乳室設置が今回の予算によって動き始めたということであり、モデル事業というところで予算額としては少し小さいかもしれませんが、大きな一歩だと思っております。そちらは先ほど知事もおっしゃってましたけれども、やはり寄附金で今回やるということだったんですけれども、県として上乗せせずに、追加せずにこの事業をやるということに関して、本当にこの子育て支援の拡充に対して知事が意欲を持っていらっしゃるのかなっていうところを少し懸念したところがありまして、その点についてお伺いしたいと思います。

○村井嘉浩知事 先ほど言いましたけれども、今回予算を認めていただいたとしても県内に二つ増えるだけです。これでは話にならないわけでありまして。車一台分ぐらいするんです、買うと。それでリースにしても非常に高いんです。ですからこれを事業者の人たちに買ってくれと言っても買えませんし、リースでといってもなかなか難しいと。大きなところではないと無理だと思うんです。ですからもっと安価に造れる方法を今考えております。そのためにいろいろ調べるモデルが必要ですので、アンケートを取るためのものであり、あるいはいろいろな規格を調べたり、使いやすさというものを実際調べるために、二つ導入することにしました。ですからこれはテストするためのものと捉えていただいて、数を増やしたいと思えます。私、職員に言っておりますのは、例えば宮城県の道に行けば必ずあるとか、宮城県のどこどこに行けば必ずある、そういう分かりやすい形でやっていきたいなと思っております。ただ、屋外に置くかどうかという点に当たって傷んでしまいますしいたずらされてしまうかもしれないので、屋内に入れられるような形で大きさなどもなるべく自由にできるような、そういう工夫をちよつとみんなで考えてくれということ、今指示しているということ、結構本気で考えているということ、です。

○小畑きみ子委員 本気だということ、私も八人いますけれども、九人、十人と、年

もあれですけど、頑張ろうと希望をちよつと感じました。

次に、私は産後八週間で仕事に復帰してきたのですけれども、やはり昼休みに職場の倉庫や使っていない空いている診察のブースで鍵もかからないところで搾乳などして、一年間ぐらい過ごしたりしてきました。やはり働く職場での授乳環境が整うことで、働くお母さんが安心して仕事に復帰できたりということができると思っていますけれども、母乳育児を続けられる環境づくりの支援、職場での支援について、どうお考えか伺います。

○村井嘉浩知事 当然非常に重要なことだと思います。母乳で育てることができればそれにこしたことはないと思います。免疫の問題もありますので。ですから、そういう意味でなるべく職場で子育てができるように、そういった環境をつくりたいと思います。

○小畑きみ子委員 今回の事業は先ほど知事もおっしゃっていたとおり、二月に行われた子育て支援に関わっている関係者の方との座談会で産後ドゥーラの中原さんからの提案が元になったと思っております。まさに、県民の声が知事に届いてかなった事業だと思っております。今後ともこのように県民の声が知事の下に届くことを期待して、この質疑を終わらせていただきます。子育て環境整備を拡充していただくことで、産みたい人が産みたいときに産める社会に向けて、宮城県全体で頑張っていたいただきたいと、知事に頑張っていたいただきたいと思えますし、私も頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。